

「小テストのシンジツ」

—初稿—

2025/09/15

しのめ ののの

〈人物表〉

佐藤 陽斗^{はると}

(9)

小学3年生

大島 優香

(25)

陽斗の担任

渡辺 奏太

(9)

陽斗のクラスメイト

佐藤 直子

(34)

陽斗の母親

1. 小学校・廊下（昼）

一般的な小学校の校舎内廊下。

教室の扉付近に、「3年1組」というプレート。

教室内から、大島優香（25）の声が聞こえている。

優香 「はいじゃあ漢字テスト返却しまーす。赤澤さーん」

2. 3年1組の教室（昼）

教室内で、優香が生徒たちに小さな答案用紙を返却している。名前を呼ばれた生徒が順に教卓へ向かい、

優香から用紙を受け取っている。

生徒たち、あちこちでざわざわと会話している。

教室の後方辺りに座っている佐藤陽斗（9）、付近の女子生徒に話しかけられている。

女子生徒「陽斗くん、どうだった？」

陽斗 「……いつも通り」

陽斗、気取った様子で答案用紙をひら、と見せる。

10問の漢字テストすべてに赤丸がついており、10点と記載されている。

女子生徒「さすがー。ってことは……」

優香 「はいじゃあ前向いてー。今回も記録を更新した人がいまーす」

生徒たち、教卓の優香へ注目する。

優香 「今回で、29回連続満点を取りました。佐藤くん」

生徒たち、「すごーい」などと言いながら拍手。

陽斗、平静を装いつつもどこことなく得意げ。

優香 「そしてもう一人、渡辺くん」

陽斗、左の方を見る。

二つ隣の席で、渡辺奏太（9）が照れ笑いを浮かべている。

陽斗、少し警戒するような表情。

優香 「二人とも、次で30回だからね。頑張ってくださいね。みんなも、二人に負けないように頑張りましょう」

3. 佐藤家・外観（夜）

品の良い住宅街に立つ、大きめの綺麗な一軒家。

4.

佐藤家・リビング（夜）

あまり生活感のないリビング。家族写真などもほとんど無いが、何かのトロフィーや盾ばかりがいくつか飾られている。

陽斗と佐藤直子（34）が夕食を摂っている。

直子、食べながらスマホを見ている。

直子 「……そういえば、お父さん明日帰ってくるって」

陽斗は直子を見るが、直子はスマホを見たまま。

直子 「部屋片づけときなよ。どうせまたすぐ出張だけど」

陽斗 「……はーい」

陽斗、俯いて食事を続けるが、ふと顔を上げる。

陽斗 「……あのさ……今日、漢字の小テスト返ってきたよ」

直子 「ふーん」

直子、スマホから目を離さず生返事。

陽斗 「……満点だった」

直子 「へー。いつも通り」

陽斗 「……うん」

陽斗、諦めたように黙々と食事を続ける。

直子 「……何回目？」

陽斗、はっと顔を上げて直子を見る。

直子はまだスマホを見ている。

陽斗 「……29回目。29回連続」

直子、徐に顔を上げて陽斗を見る。

直子 「……すごいじゃん」

陽斗、表情が明るくなる。

直子 「陽斗だけ？」

陽斗、一瞬答えに詰まる。

陽斗 「……ううん。もう一人いる」

直子 「そっか……じゃあさ、その子に勝てたら何か買ってあげようか？」

陽斗 「えっ？」

直子 「なんでも欲しいもの言いなよ」

陽斗、思わず笑顔がこぼれる。

5.

3年1組の教室（昼）

優香が漢字の答案用紙を生徒たちに配っている。

生徒たち、小さな答案用紙を前から順番に後ろの席へ回している。

優香 「はい、まだですよー。まだ見ちゃだめー。はい、始めて

ください」

生徒たち、一斉にテストを始める。

陽斗、答案用紙を見つめる。1問目に「ショウブ」と書かれている。陽斗、勢いよく「勝負」と書く。

陽斗、次々と問題を解いていく。教育、漢字、決意、幸福、明暗、感動、悪者、神童、といった漢字をすらすらと書いていく。

突然、陽斗の手が止まる。「神童」と書いた隣、10問目に「シンジツ」と書かれている。

陽斗、何度も何かを書こうとしたり、空中で文字を書くような仕草をするが、どうしても思い出せない。陽斗、慎重にこっそりと左の方を見る。

隣の生徒は諦めたように机へと突っ伏している。

その向こうに奏太の姿。既に鉛筆を置き、真っ直ぐ前を向いている。

陽斗、焦った様子で答案用紙に目を戻す。

瞬きが増え、呼吸が荒くなってくる。

優香 「あと一分でーす」

陽斗、ぎゅっと目を瞑る。少ししてからゆっくりと目を開け、教卓の優香を盗み見る。

優香、油断しており陽斗の方を見ていない。

陽斗、震える手で慎重に、机の中からメモのようなものを引き出す。漢字が複数書かれている。カンニングペーパーである。

不慣れな手つきでほんの少しだけ紙を引っ張り、視線だけを下に落とす。

6. 小学校・廊下（昼）

3年1組の教室内から、優香の声が聞こえている。

優香 「はいじゃあ漢字テスト返却しまーす。赤澤さーん」

7. 3年1組の教室（昼）

生徒たち、あちこちでざわざわと会話している。

陽斗、険しい面持ちで教卓の方を見つめている。

視線の先には、にこやかに会話する優香と奏太。

奏太、答案用紙を受け取りつつ照れたような笑顔。

奏太が着席するや否や、優香が話し出す。

優香 「はいじゃあ前向いてー。遂にやりました。30回連続満点」

教室が「やばー」などとざわつく。

優香 「佐藤くん。おめでとう」

生徒たちの賞賛と拍手。

陽斗、若干険しいながらも嬉しそうな表情。

拍手が止み、陽斗は僅かに身構える。

優香 「……以上です」

教室から「ええーっ」と声上がる。

陽斗、驚愕して奏太の方を見る。

奏太、照れたように笑っている。

奏太 「いやあ、最後の問題がどうしても思い出せなくてさ。ど忘れしちゃった」

生徒たち、「残念だったねー」、「陽斗が一番かー」

などと好き好きに口走る。

奏太、笑顔で陽斗の方を見る。

奏太 「すごいね。おめでとう。いつもどうやって勉強してんの？」

陽斗 「あ、いや、えっと……」

奏太の笑顔に面食らい、陽斗の視線が泳ぐ。思い切
って何かを言おうとするが、言葉が出てこない。

陽斗 「……ありがとう」
生徒たち、再度拍手。

陽斗、視線を落とす。完全に笑顔が消えている。

8.

佐藤家・リビング（夜）

陽斗と直子が夕食を摂っている。

直子、相変わらず食べながらスマホを見ている。

陽斗はひたすら無言。

直子 「……そういえば、漢字のテストどうだったの？」

陽斗 「えっ……？」

陽斗、驚いて直子を見る。

直子、まっすぐに陽斗を見ている。

直子 「今日じゃなかったっけ？」

陽斗 「あ……うん、そう……」

直子 「だよね。どうだった？」

陽斗、動揺する。俯き、どう答えるか悩む。

目をぎゅっと瞑り、拳を握りしめ、直子の顔を見る。

陽斗 「……ダメだった」

直子 「え？」

陽斗 「……負けちゃった。もう一人の子に」

直子 「……そっか」

直子、興味を無くした様子でスマホに視線を戻す。

陽斗、詰めていた息をこっさり吐き出し、無言で食事を再開する。

おわり